

2014年2月23日 主日礼拝
説教 わたしの十字架
マタイの福音書 16章 21-26節

【マイケル・ジャクソンの墓】

今日の箇所は、イエス・キリストが十字架について語り始めるところ。十字架はキリスト教の核心。マイケル・ジャクソンの墓があるフォレスト・ローン公園墓地には一つキリストの彫刻があると聞きます。見る人が立ったままその彫刻を見ると、キリストの頭のとっぺんしか見えない。顔が見えない。けれども、ひざまずいて見上げると、キリストの顔が見えると言います。今日初めて礼拝に来られた方も今までと違う角度で、十字架のキリストを見ていただきたいと願っています。

【キリストの十字架】

「その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され…」(21)。キリストが苦しみを受けるとは、不思議。キリストは神なのに、その神が苦しむとは!?

この不思議を理解するには「愛」に焦点をあてることです。神は愛。神さまは、私たちの苦しみを見ていることが出来ません。だから、神さまは人となり、苦しみを受け、十字架で死んだのです。

【下がれ。サタン。】

ペテロという人は、イエス・キリストの一番弟子。一番弟子なのに、と言うべきか、一番弟子だから、と言うべきか。ペテロは、十字架を止めようとしみます。「するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。『主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません』」(22)。「あなたが十字架にかかるようなことがあってはならない。神であるあなたが、苦しめられ、十字架にかかることがあってはならない」、そう必死になって言うペテロの思いは、私たちにもよくわかります。

けれども、イエス・キリストは、十字架に向かって進んでいく。そして阻もうとするペテロを「下がれ。サタン」(23)と叱るのです。

「私を止めるな。神のことを思え。一番弟子であるあなたには、わかるはずだ。あなたは、私のじゃまをするのではなく、私とおなじ思いで生きて欲しいのだ。私と同じように、愛に生きて欲しい」そう招かれたのでした。

【わたしの十字架】

そして主イエスは「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい」(24)と言います。それは、それぞれが置かれている場所で、キリストの心を持って生きること。私たちが置かれている場所はさま

ざまです。ある人は健康、ある人は病や障害を持つ。ある人は豊かで、ある人はお金で苦労している。ある人は大きな事業の責任を持たされ、ある人は責任を持たせてもらえないことに悩む。そんなにちがう一人一人が、それぞれの毎日の中で、キリストの心を持って生きる。キリストのように、自分のまわりの人々を支えること、ゆるすこと、受け入れあうこと。それが、自分の十字架を負ってキリストについて行くことです。

「…わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです」(25)。十字架を担う生き方が本当の生き方。ほんとうの喜びの生き方。たましいの深い所からの喜びに生きる生き方。たとえば、生まれつきの障害があったとしても、いのちにあふれる生き方。ではどうしたら、そのように生きることができるのでしょうか。キリストがそうさせてくださいます。そのために十字架で死んでくださったキリストがお命じになったのですから。

【わたしたちの十字架】

十字架を負う生涯は幸いな生涯。困難な生涯ではあるけれども、あなたの先にはイエス・キリストが歩いています。あなたが疲れるなら、いつでも振り返ってくださるのです。そして、キリストはあなたと共に歩く仲間を与えてくださっています。あなたはひとりではないのです。